

AFTERNOON TEA

最近いろいろ感じたこと、考えたこと、思ったこと

中部大学生命健康科学部

堀田 典生

帝京大学医療技術学部太田大樹先生よりバトンを受け取り執筆させていただくことになりました。太田大樹先生とは、名古屋大学環境医学研究所の神経性調節分野2の水村和枝先生の教室と一緒に過ごしました。研究のことだけではなく、いろいろな話をしたことを思い出します。私が教室を先に出ていくことになりましたが、その時にいただいた名古屋大学の爪切りを今でも大事にしております。

先日、科研費の書類の提出が終わりました。もう“若手”では申請できなくなったので、まだまだこの世界では若い世代とはいえ、若手ではなくなったのだと痛感させられました。同時に、現在中部大学で指導を受けている水村和枝先生と同じ土俵で戦うと思うとぞっとし、さらに、先生のように研究室の運営を今後していくことが私などにできるのかと不安になりました。科研費の申請は私にとっては、とても労力を割く困難な作業でしたが、一方で、多くのことを気付かせてくれるものでした。例えば、私は多くの方に応援して頂いている幸せ者であるということに気付きました。また、頭の中で混沌としていたことをまとめることにより、申請で書こうと思っていたこと以上のアイデアの創出につながるということも、今回改めて気付かされました。そして何よりうれしかったことは、研究費を取らなければいけないという義務感よりも、ワクワク感が勝っていた自分に気付けたことでした。

先日、培養脊髄後根神経節細胞の全細胞パッチクランプ記録において、機械刺激に対する反応の観察に成功し喜びました。私が水村和枝先生のところ学んだ大きな技術は、もう一つあり、*in vitro*における筋細径求心神経の単一神経記録で

す。私の知る限り、私の所属分野である運動生理学において、これらができる研究室は世界でも希少であり、私にとっては強い武器になりました。しかしながら、環境（測定装置があるなど）と先駆者に対する礼を忘れてはいけないと再認識する機会がありました。先駆者とは、その研究室独自のやり方（コツ）を築きあげてきて下さった方たちです。私は、研究室での方法論が固まっている状態で、さらにそのコツから何から何まで教えていただける環境からスタートしました。サッカーで言うと、誰でもゴールが決められるところで私はパスを受け取り、シュートして得点したに過ぎないのです。私はチームメートに恵まれたラッキーな一選手です。ありがたいことです。

先日、私の父が退職をしました。これから私の父はどのような毎日を過ごすのかと疑問に思いました。平和で穏やかな毎日を過ごすのか、それとも、仕事があったためにこれまでに我慢してきたことを行うのか、とても興味があります。私は、穏やかな日が好きなので、退職後は平和に毎日を過ごし、自分のやりたいことをやりたいという夢があります。老後にやるリストを恥ずかしながら作成しています。一方で、私の性格の一つに過去に捕らわれるというものがあります。後悔することが絶えないのです。退職までにやり残したことがあるとすれば、老後は老後で自分のこれまでの行いを悔いて楽しめないと思いました。まだ30代ですが、老後のためにも毎日ががんばろう！と自分に言い聞かせることにしました（笑）。

先日、研究室の卒業生から、“先生は学生の頃、口うるさく嫌いでした、ですが、社会に出てから、先生が言っていたことを理解できました”と仰っていただきました。先ほどもご紹介したように、

私には過去に捕らわれるというきらいがあるので、私が後悔した同じことで学生に後悔して欲しくないという教育観があります。ところで、多くの方は過去を振り返り、過去に大人や指導者に言われたことを当時は理解しなかったり、できなかったり、反発しておきながら、数年後数十年後

にその意味が分かるというとても不効率な人生を歩むと思われまふ。未来は見えないので当然かもしれないませんが、とても不思議に思いました。学生の頃私が先生から注意を受けたことを学生に偉そうに私が注意している…恥ずかしくて過去の先生にそのような姿は見せられないです。



子育てしながらの研究生生活

信州大学バイオメディカル研究所バイオテクノロジー生体医工学部門

安嶋久美子

この度、東北医科薬科大学医学部神経科学の坂本一寛先生よりご指名を頂きました安嶋久美子と申します。東北医科薬科大学生理学教授に就任されました河合佳子先生の授業で非常勤講師としてお手伝いした際、坂本先生と一緒させて頂きました。生理学会員としましては第89回日本生理学会大会（松本）で大会事務局として参加や発表をしましたが、数年中々参加できなかった私が生理学雑誌執筆など大変恐縮ですが、子育て中の先生方と共有できればと思い私の子育てしながらの研究生生活について書こうと思います。

研究

私はドラッグデリバリーシステム（DDS）を目標としたナノバイオイメージング、またナノ粒子による脈管、特にリンパ系に与える影響を調べる研究を行っています。なぜナノマテリアルとリンパかと申しますと、遡ること14年程前修士を卒業した後、つくばでJSTプロジェクトにて飯島澄男先生と湯田坂雅子先生の元、約5年間カーボンナノチューブの材料研究に携わりカーボンナノホーンのDDS応用研究をしておりました。しかし、そのプロジェクト終了後結婚し長野県に移住、これまでとは大分分野の違う医学研究に関わることとなりました。信州大学第一生理学教室にて当時医学部長でした大橋俊夫教授にポストドクとして拾って

いただき、主に *in vivo* 実験でリンパ微小循環の生理について7年程研究を行って参りました。その間は出産育児などがあり多少ブランクもあった時期でした。去年4月からは同大学内バイオメディカル研究所齋藤直人教授のバイオテクノロジー・生体医工学部門の研究チームに参加することとなり、メディカル・ヘルスイノベーション講座を作られた大橋先生との共同研究で、これまでの経験を生かし摘出リンパ管標本を使ってDDS分野に役立つ融合研究が出来ないかと修士の学生さんと一緒に現在模索中です。

子育て

子供は現在7歳長男と2歳長女です。2007年冬松本に来てから2009年には長男の出産のため産休を頂きすぐ職場復帰しました。その頃は、子供を抱えて仕事もどうやってこなすのか誰のお手本を見聞きすることなく暗中模索でしたが、首の座らない乳児を保育園へ送る慌しい生活が否応なく始まり、日中は研究と教育、夕方7時慌てて保育園に迎えに行き急いで帰宅、子供の夕食、お風呂、洗濯、翌日の保育園の準備、8時半には寝かし夜中はぐずる子供にミルクを与え何とか寝かしつけるという生活がずっと続きました。この目まぐるしい生活は大分慣れましたが今現在も毎日が戦争です。